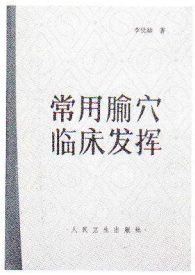
09 野口創
登美ヶ丘治療院

『常用腧穴臨床発揮』

李世珍著
人民衛生出版社刊
※邦訳は『臨床経穴学』（李世珍著・兵頭明訳／東洋学術出版社刊／10,080円）



当時、私は、留学していた北京中医薬大学で学ぶに当たり、なんとしても李世珍先生の著書を手に入れたくて、医学書専門の書店を何軒も探し回わっていました。なかなか見つけられずにいた一冊が『常用腧穴臨床発揮』でした。

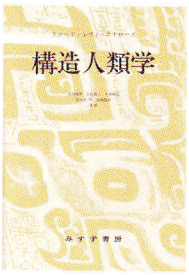
何カ月もかけて求めたその“貴重な本”をようやく手にしたときの感動は、今でも鮮明に記憶しています。抹茶色をした表紙のハードカバー本で、A5よりひとまわり小さいサイズだが、ページ数が多く、厚みが5cm以上ある、ずっしりと重い本。今も私の書棚に、存在感を持って輝いています。この本との出会いがきっかけで、北京から遙か遠方の河南省南陽市におられた李世珍老師のもとに厚かましくも押しかけ、研修生となり、直接、指導を受ける幸運に恵まれたのです。

この本は、李家四代100年以上の家伝である鍼灸臨床実践に基づき、十四経経穴と経外奇穴から、常用穴86穴を選び、それぞれの経穴の「概説・治療範囲・効能・主治・臨床応用・症例・経穴効能鑑別・配穴・参考」の9つの内容を丁寧に紹介しています。なかでもすばらしいのは、「臨床応用」の項で、経穴がどのような疾患を治療でき、さらにその適応疾患別に、弁証論治を細かく解説されているところです。一般的な経穴に対する書籍は、本場中国でさえ概論的なものが多く、実際の鍼灸臨床と結びつけるためには、さらに別に鍼灸治療症例などの書籍を参考にする必要があります。しかし、この本では、すべてが一冊に集約されており、弁証論治に基づいた鍼灸臨床に、非常に応用がしやすくなっています。これはひとえに、李世珍老師が、弁証論治の実践は、鍼灸の臨床現場でも漢方薬治療と同様に、最も大切であるという信念のもとに書かれたからだと思います。

10 佐藤純一
医師／医学概論

『呪術師とその呪術』

レヴィ・ストロース著／荒川幾男、ほか訳
みすず書房刊（『構造人類学』に収載）
6,930円



クワキウトル・インディアンの治療者（呪術医）であるケサリードの話です。

ケサリードという青年は、呪術医の力など信じていなく、それはトリックだと思っていました。彼は、その呪術医のトリックを暴きたいという好奇心と願望で、呪術医グループに弟子入りします。弟子になったケサリードは、呪術医たちの秘密の治療技術を伝授されます。伝授された治療技術は、「無言劇と奇術と経験的知識の奇妙な混合」で、ほとんどが、ケサリードが事前に思っていたように、トリック（詐術）だったのです。呪術医の弟子を続けていると、ある日、ケサリードに名指しで病人の治療が依頼され、ケサリードは伝授された（トリックと思っている）治療技術で治療すると、病人は治ってしまうのでした。ここからケサリードは、自分の治療技術に疑念・疑問を持ちながらも、呪術医としての治療を続け、最後には近郊で一番有名な「大呪術医」になっていったのでした。

この論文「呪術師とその呪術」は、人類学者ボアズによって記録されたクワキウトル・インディアンのケサリードの自伝の断片のテキストを、人類学者レヴィ＝ストロースが要約をして議論した論文です。非常に短い（邦訳本では20頁に満たない）論文ですが、「人はどのようにして治療者になるのか」「治療者にとって自分の医学・技術はどのようなものなのか」、そして「人はなぜ治るのか」を考えさせてくれる論文でした。

論文の最後のレヴィ＝ストロースのコメントは、「ケサリードは病気をなおしたから大呪術師になったのではなく、大呪術師になったから病気をなおしたのだ」です。